

食物アレルギー対応マニュアル

かきつばた保育園

1. アレルギー食対応の基本

- (1) 医師から食物アレルギーと診断され、家庭で除去食を作っている場合、園でも協力し対応する。
- (2) 除去食の提供は、医師の診断が必要。
- (3) 食事に関しては、集団給食の中で可能な限りでの対応（除去食・代替食）とし治療食や特別食は行わないことにする。
- (4) 黄色の食器・お盆を用意し、給食室で配膳したうえで各クラスの担任へ手渡しをする。
- (5) 顔写真とクラス・氏名・除去食品名（卵・乳など）が記載されたカードをお盆に付けて、提供まちがいを防ぐ。
- (6) 月末までに次月の献立を保護者へ配布し、除去が必要なものに印をつけてもらう。保護者確認済のサインと印鑑を記入し、担任へ提出してもらう。

2. アレルギー食指示書・診断書の提出に関して

- (1) 子どものアレルギー等により保護者が保育園での給食の除去食を希望する場合は医師による診断書、または検査結果（コピー可）を提出してもらい、その診断書に基づき実施する。
- (2) 診断書の提出は、毎年度1回とする。
- (3) アレルギー指示書の取り扱い
保護者から担任にアレルギー指示書が提出される。
担任は園長・主任・調理室に報告しコピー1枚とっておく。
コピーが担任が個人ファイルに閉じる。「入園児健康診断」に重ねて綴じ、子どもの経過がわかるようにする。

3. 保育士の対応

- (1) 各担任にアレルギー児用献立表を周知する。
- (2) 朝、調理室へアレルギー児の出欠を口頭で伝える。
- (3) 食物アレルギー児がいるクラスでは、予め献立表を見てアレルギーの対象となる食品を確認する。
- (4) アレルギー児への対応は、原則として担任が行う。
- (5) 担任は献立表と除去カードを確認し、原則的には他児への配膳の前にアレルギー児へ提供する。

- (6) 除去食のない場合は、「〇〇組〇〇さん、全部みんなと同じですか？」と調理室確認する。
- (7) アレルギー児の担任は食事で不審な点があるときは、子どもに配膳する前に調理室へ連絡し、確認後配膳をする。
- (8) アレルギー児の変更・解除の時は、職員会議で報告する。
- (9)

4. アレルギー解除について

食品除去が解除になった場合は、医師の診断書を担任に提出する。
家庭でその食品を使用し、異常がないことを確認してから園での使用を始める。解除開始の日にちは主任・担任。栄養士で決める。

5. 指示の確認について

看護師・保育士は、除去食の指示を提出した子どもの原因、起こる症状を診断や保護者から確認する。

6. 誤って食べてしまった場合

- ① アナフィラキシーを起こす子が食べた場合は、すぐ救急車を呼ぶ。
- ② 園長または代理と連絡をする。
- ③ 担任は、保護者に連絡をする。
- ④ 園長または代理は、栄養士に連絡をし献立の内容、量を確認する。
- ⑤ 担任は、食べた時間を確認する。
- ⑥ 担任は、症状の現れ方、現れた時間、を観察する。
- ⑦ 起こす子以外でもアナフィラキシーにつながる「ぐったり」「息苦しい」「咳・喘鳴」「口唇や口のまわりの腫れ」が発生した場合、急いで救急車を呼ぶ。
- ⑧ 呼吸困難などがなく、発赤疹、かゆみ、じんましんが発生した場合は、主治医の受診の手続きをする。
- ⑨ 書面にて報告し、なぜ食べてしまったのか状況を確認し、次回の予防のための対策を立てたり、注意の確認をする。

アレルギーマニュアル

1. アレルギーについて・・・・・・・・・・・・・・・・
2. アレルギー症状・・・・・・・・・・・・・・・・
3. 主なアレルギー物質・・・・・・・・・・・・・・・・
4. アレルギー事故が起きないために・・・・・・・・
5. アレルギー事故が起きてしまったら・・・・・・・・

2. アレルギー症状

【全身の症状】

- ・意識がない ・意識朦朧 ・ぐったりしている ・尿や便をもらす
- ・脈が触れにくい ・唇や爪が青白い

【消化器の症状】

- ・腹痛 ・吐き気、嘔吐 ・下痢

【呼吸器の症状】

- ・声がかすれる ・犬が吠えるような咳 ・喉や胸が締め付けられる ・咳
- ・息がしにくい ・ゼーゼー、ヒューヒュー

【皮膚の症状】

- ・かゆみ ・じんましん ・赤くなる

【顔面・目・口・鼻の症状】

- ・顔面の腫れ ・目のかゆみや充血、まぶたの腫れ
- ・くしゃみ、鼻水、鼻つまり ・口の中の違和感

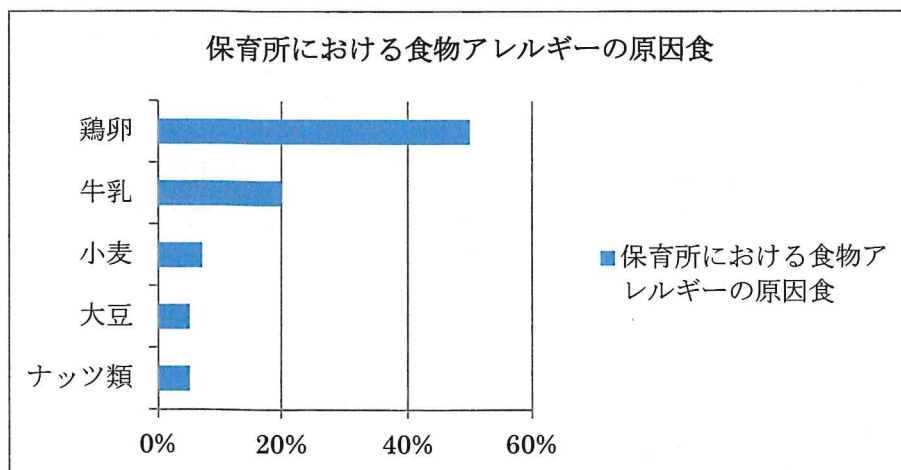
3. 主なアレルギー物質

【特定原材料】

卵	小麦	えび	かに	そば	落花生	乳
---	----	----	----	----	-----	---

【特定原材料に準ずるもの】

あわび	いか	いくら	オレンジ	カシューナッツ	牛肉	くるみ	ゴマ
さけ	さば	大豆	鶏肉	バナナ	豚肉	まつたけ	もも
やまいも	りんご	ゼラチン					



☆アレルギーの原因食のほとんどが鶏卵を占めている。

5. アレルギー事故が起きてしまったら

【対応について】

アレルギー症状がある
(食物の関与が疑われる)

原因食物を食べた
(可能性を含む)

原因食物に触れた
(可能性を含む)

☆発見者が行うこと☆

- ①子どもから目を離さない
- ②助けを呼び、人を集める
- ③エピペンと内服薬を持ってくるように指示をする

緊急性の高いアレルギー症状がある場合

緊急性の高いアレルギー症状がない場合

☆緊急度の高いアレルギー症状☆

【全身症状】

- ☐ぐったり
- ☐意識朦朧
- ☐尿を漏らす
- ☐脈が触れにくい
または不規則
- ☐唇や爪が青白い

【呼吸器の症状】

- ☐喉や胸が締め付けられる
- ☐声がかすれる
- ☐犬が吠えるような咳
- ☐息がしにくい
- ☐持続する強い咳き込み
- ☐ゼーゼーする呼吸

【消化器の症状】

- ☐持続する強い
おなかの痛み
- ☐繰り返し吐き続ける

①可能なら内服薬を飲ませる

②医務室等で安静にする

③症状の観察をこまめに(5 分ごと)
に行い、緊急性の高いアレルギー症
状の出現には特に注意をする

- ①ただちにエピペンを使用する
- ②救急車要請をする
- ③その場で安静にする
(立ったり歩かせたりしない)
- ④その場で救急隊を待つ
- ⑤可能なら内服薬を飲ませる

反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を
行う
→行い方は危機対応マニュアル参照

【エピペンの使い方】

◆それぞれの動作を声に出し、確認しながら行う

① ケースから取り出す



ケースのカバーキャップを開け
エピペン®を取り出す

② しっかり握る



オレンジ色のニードルカバーを
下に向け、利き手で持つ

“グー” で握る！

③ 安全キャップを外す



青い安全キャップを外す

④ 太ももに注射する



太ももの外側に、エピペン®の先端
(オレンジ色の部分)を軽くあて、
“カチッ”と音がするまで強く押し
あてそのまま5つ数える

注射した後すぐに抜かない！
押しつけたまま5つ数える！

⑤ 確認する



使用前 使用後

エピペン®を太ももから離しオレ
ンジ色のニードルカバーが伸び
ているか確認する

伸びていない場合は「④に戻る」

⑥ マッサージする



打った部位を10秒間、
マッサージする

介助者がいる場合

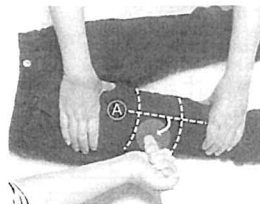


介助者は、子供の太ももの付け根と膝を
しっかり抑え、動かないように固定する

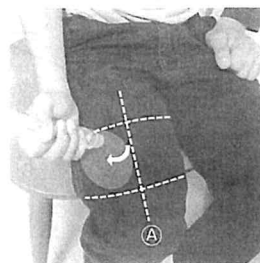
注射する部位

- ・衣類の上から、打つことができる
- ・太ももの付け根と膝の中央部で、かつ
真ん中（A）よりやや外側に注射する

仰向けの場合



座位の場合



ミルク調乳マニュアル

かきつばた保育園

令和 3 年 5 月 18 日改訂版

調乳時の注意点

- ・調乳前には石けんで手を洗い、きれいな手で調乳を行いましょう。
- ・器具は哺乳瓶洗い用洗剤できちんと洗い、洗剤分を十分に洗い流しましょう。
- ・正しい方法でしっかりと消毒したものを使用しましょう。
- ・粉ミルクは正確に測り、説明文どおりの量を飲ませましょう。
- ・使用するお湯は一度沸騰させ、適温に冷ましたものを使いましょう。
- ・やけどをしないよう注意しましょう。熱いお湯で子どもがやけどをする危険があります。調乳室には絶対に子どもを入れないように注意しましょう。また保育士が抱っこをしたままの調乳は禁止です。
- ・粉ミルクを溶かすお湯はいったん沸騰させ、70℃以上に冷ましたものを使用しましょう。
- ・粉ミルクが残らないように十分に混ぜましょう。
- ・ミルクの温度を下げるときに哺乳びん内に水（白湯も含む）を足したりせず、哺乳びんを冷水や氷水に浸したり、流水で適温に調節したりしましょう。
- ・ミルクの温度を確かめるため、保育士が乳首から直接ミルクを飲むことはやめましょう。
- ・飲み残しのミルクはどれだけ飲んだかを複数人で確認後、記録をしたのち処分しましょう。
- ・前もって粉ミルクを哺乳瓶へ入れたりミルクを作って保管したりするなど作りおきは禁止です。
- ・粉ミルクは開缶後 1 ヶ月以内で使用しましょう。開缶時、開缶した日を缶に記入しましょう。ミルク缶内は栄養たっぷりて菌が繁殖しやすい状態です。開封後は高温多湿、直射日光や虫、埃を避け、乾燥した清潔な場所での保管方法にしましょう。冷蔵冷凍庫保管は禁止です。

ミルクの飲ませ方

授乳の姿勢

- ・基本的には、横抱きです。
利き手と反対の肘の内側に赤ちゃんの頭をおき、おしりは保育者の太ももにおき、上体を起こした姿勢になるように抱っこします。
赤ちゃんが自然に快適な姿勢で、保育者も安心しおだやかな状態で授乳ができるような姿勢になるよう調節しましょう。

赤ちゃんの目を見つめ、声をかけてみましょう

- ・ゆっくり抱っこしたら、赤ちゃんの目を合わせ、ミルクの時間ですよとやさしく声をかけてあげましょう。

哺乳瓶は傾けて

- ・哺乳瓶と赤ちゃんの口が平行になる状態を保ち、乳首がミルクで常に満たされるようにしましょう。

乳首・専用スプーンの洗いか方

- ① 乳首は乳首専用のブラシを使って洗いましょう。専用のブラシがない場合は、乳首を裏返して丁寧に洗いましょう。傷つけたり、穴があいたり裂けてしまうことがないように注意しましょう。また、専用スプーンは使用した後スポンジを使って洗いましょう。
- ② 流水でしっかりと洗い流しましょう。細かいところまできちんと洗い流しましょう。
- ③ ブラシ・専用スプーンはきちんと洗って、乾燥させましょう。また、専用スプーンはミルク缶の中で保管をせず衛生管理が行き届いた場所（殺菌庫等）で保管しましょう。

（2）消毒の必要性

- ・赤ちゃんは抵抗力がないため、雑菌を防ぐため調乳器具を洗浄した後に消毒しておく必要があります。消毒法には、昔から行われている煮沸消毒、消毒液を使う消毒法、電子レンジを使って行う方法、高温の蒸気で消毒するスチーム法などがあります。

遠赤外線放射熱で除菌乾燥消毒の方法（クリアベビーボトル）

- ① 調乳に必要な器具は専用の洗剤とブラシで洗い、十分すすぎます。
- ② 濡れた哺乳瓶はクリアベビーボトルを開けた哺乳瓶用ラックに底を上にして入れる。また乳首と蓋は上段の乳首用ラックに乳首を上、また蓋の上部を上にして入れます。
- ③ 蓋を閉め、スタートボタンを押し、スタートボタンランプが消えるまで消毒乾燥を行います。
- ④ 終了後すぐは熱いので注意が必要です。

煮沸消毒の方法

- ① 調乳に必要な器具は専用の洗剤とブラシで洗い、十分すすぎます。
- ② 消毒用の鍋に器具を入れ、哺乳瓶などがかくれるくらいの水を入れ火にかけます。
- ③ お湯が沸騰してから10分間煮沸します。ただし、乳首は熱に弱いので3分間で引き上げます。
- ④ 所定の時間が終わったらびんハサミを使って取り出し、哺乳びんケースなどで保管しましょう。煮沸消毒は、必要物品が少なく経済的ですが、鍋のお湯が沸くまで時間と光熱費がかかります。

薬液による消毒の方法

- ① 哺乳瓶や乳首などを専用の洗剤とブラシでよく洗い、十分すすぎます。
- ② 消毒用の専用容器に指示通りに水と薬液を入れます。
- ③ びんはさみを使って哺乳瓶や乳首を完全に沈めます。この時に哺乳瓶や乳首に空気が残らないよう注意します。
- ④ 落とし蓋・蓋を閉めて指示された時間消毒を行います。
- ⑤ 消毒液は指示された時間で交換します。

乳児用調製粉乳の安全な調乳、保存及び取扱いに関するガイドラインの概要
(FAO/WHO共同作成)

哺乳ビンを用いた粉ミルクの調乳方法



Step 1

粉ミルクを調乳する場所を清掃・消毒します。



Step 2

石鹸と水で手を洗い、清潔なふきん、又は使い捨てのふきんで水をふき取ります。



Step 3

飲用水※を沸かします。電気ポットを使う場合は、スイッチが切れるまで待ちます。なべを使う場合は、ぐらぐらと沸騰していることを確認しましょう。



Step 4

粉ミルクの容器に書かれている説明文を読み、必要な水の量と粉の量を確認めます。加える粉ミルクの量は説明文より多くても少なくてもいけません。



Step 5

やけどに注意しながら、洗浄・殺菌した哺乳ビンに正確な量の沸かした湯を注ぎます。湯は70℃以上に保ち、沸かしてから30分以上放置しないようにします。



Step 6

正確な量の粉ミルクを哺乳ビン中の湯に加えます。



Step 7

やけどしないよう、清潔なふきんなどを使って哺乳ビンを持ち、中身が完全に混ざるよう、哺乳ビンをやっくり振るまたは回転させます。



Step 8

混ざったら、直ちに流水をあてるか、冷水又は氷水の入った容器に入れて、授乳できる温度まで冷やします。このとき、中身を汚染しないよう、冷却水は哺乳ビンのキャップより下に当てるようにします。



Step 9

哺乳ビンの外側についた水を、清潔なふきん、又は使い捨てのふきんでふき取ります。



Step 10

腕の内側に少量のミルクを垂らして、授乳に適した温度になっているか確認します。生暖かく感じ、熱くなければ大丈夫です。熱く感じた場合は、授乳前にもう少し冷まします。



Step 11

ミルクを与えます。



Step 12

調乳後2時間以内に使用しなかったミルクは捨てましょう。

※① 水道水は水道法に基づく水質基準に適合することが確認されている自家用井戸等の水は調製粉乳の調製用として推奨される。容器包装に充填し、密栓又は密封した水のいずれかを念のため沸騰させたものを使用しましょう。

注意 ミルクを温める際には、加熱が不十分になったり、一部が熱くなる(ホットスポット)がでる乳児の口にやけどを食やす可能性があるため、電子レンジは使用しないでください。